



團
貞

仙
果
作

十三編下



部
由
吳

可
影

緑

錦
昇
登
様

十三編上

非
題
典
三
國
古

吳由部
綠由
影

外題曲五國由



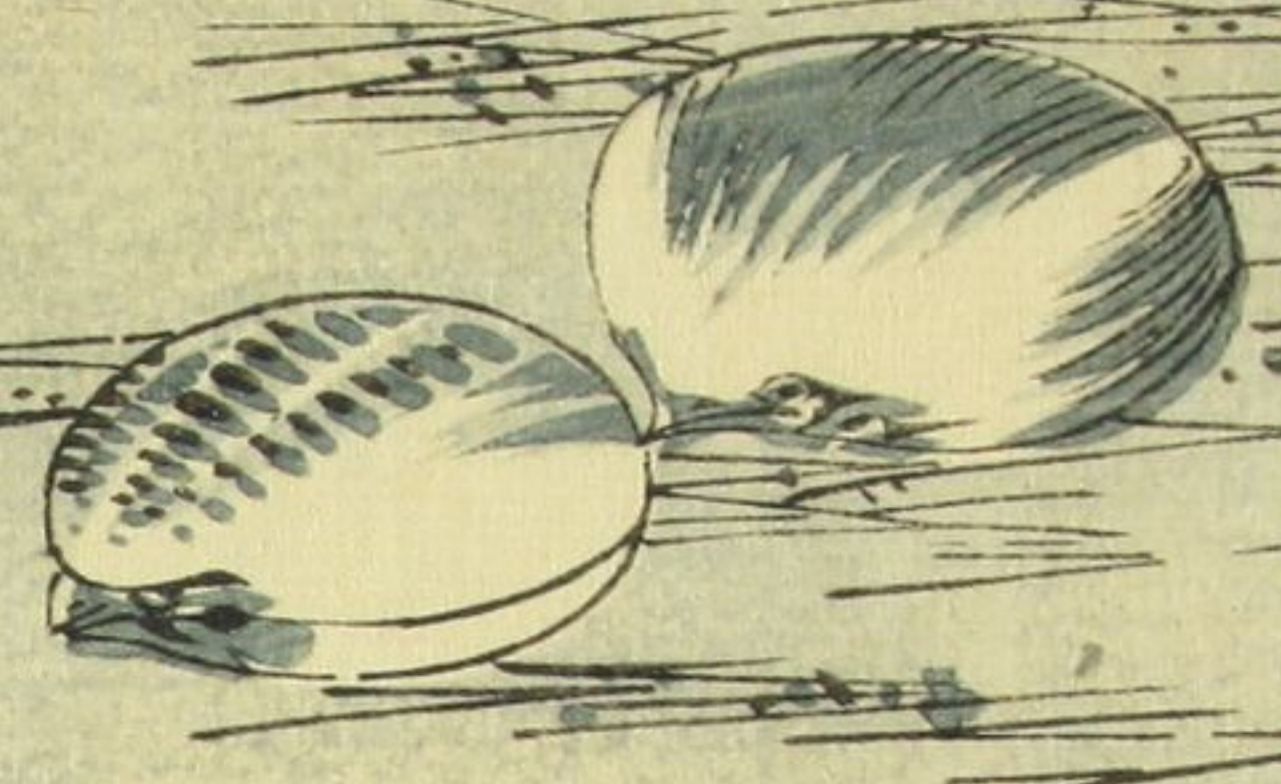
十三編上

錦昇堂様



落花集正俊の句

任若の湯に雀や卵拾



其由縁鄙俚

十三編

仙果作國貞画

笑壽屋壽梓

注

奇妙圖彙云
蛤雀
しつめ海中か入る
かきかきかきかきかき

花月文庫

故翁の紫文を譯述し、や寓言七百六十張作意も画面も上品と愛形と
 專と暴々一死と忌々一死様とも厭ひ憚られけり世界も用
 應仁記音川山名の修羅場さへ噂のゆるみ事終りぬ血と見る所の算あるなる
 縹緲の胡蝶の巻は漆園尼の外ふり然る在下其末を綴るふり
 女三宮柏木の督君の奸通の因縁を理断る為ふか三の方を毒殺せしむり似合
 一うづと知りぬる紫とふ盡て殺風景と巻毎ふ換入へて拙手の證とあらぬ
 されわれ此編の上程本意を失へるる抑先作者の意匠も成り一の瀬
 の有髪僧大内義弘是等ハ頗効敵ふてあつた三津世姫を皇胤と男子あ
 と奇小過て原書の情實も甚く乖ふれば平穩なる體裁も挽回さるる
 罷ことを得ぬ攻劇劑これ由縁の紫圓の写藥毒を以毒をせむる推道清物の
 塩出ふ塩水を用ふ格とる二編は他所目くかかかかかかかかかかか

重七

乙卯孟陽新刊

笠亭仙果白





音作十三

明石の上住吉詣神樂の次

雑藝法樂
俳優辰之助
鎧踊の
ことろ

曲と國金

さしお水木が
用あれとかる
お化とわたのまゝと
倫外のこゝろまゝと
戯作と
とやうたふ



仙果作
國貞画
ゆもまてられぬま
るはト安全被や
ハ仁木石ころころ
ひんものかまき

あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

同行笠
名所歌

滑稽百富士詣

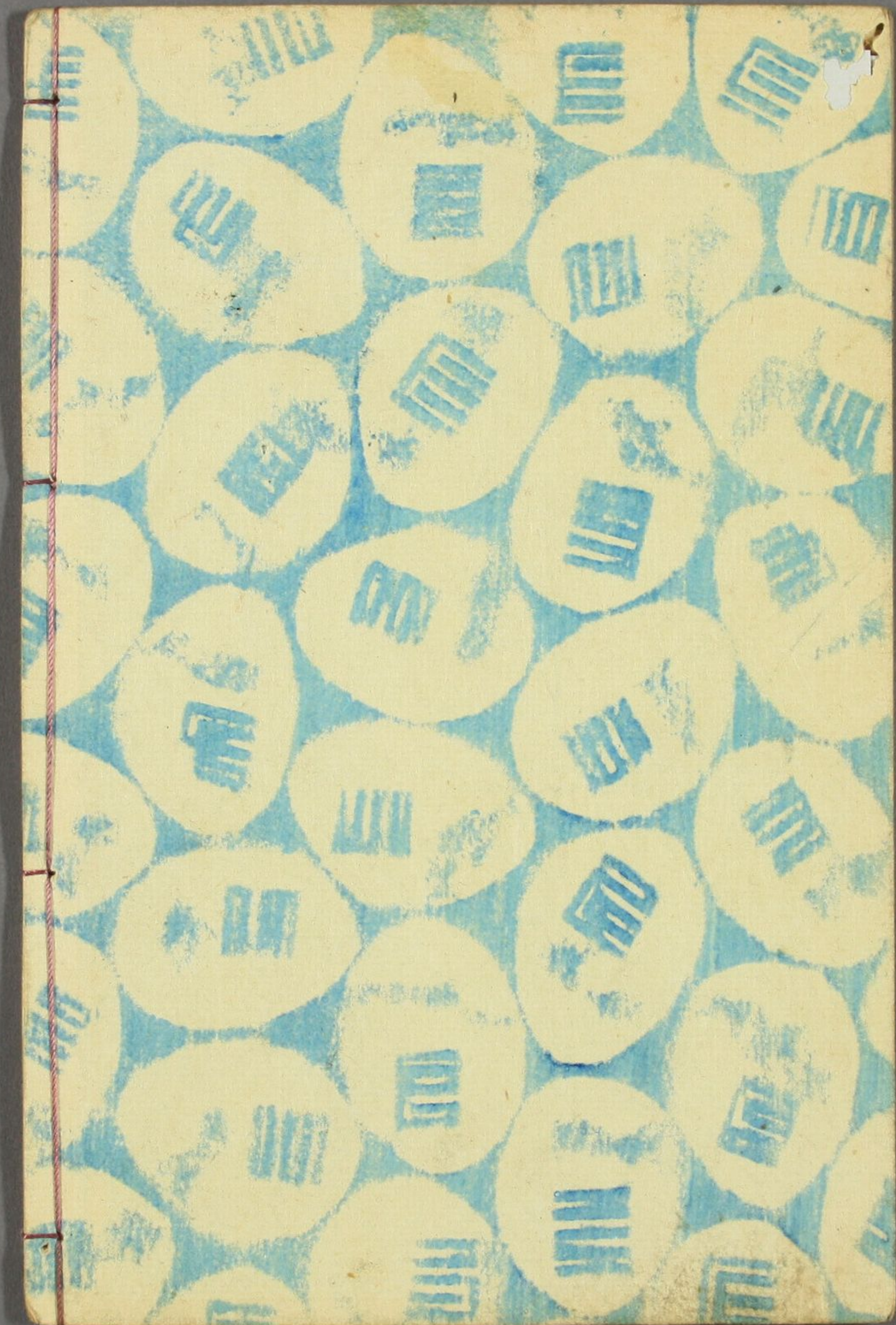
婦人中々 假名垣會文戯作
毎編三巻
増大尾 一 孟瑠扇芳虎狂画

富士山開闢の御縁年々富士山を登る人々の登山許されたる
滑等の趣向 同行の老若男女 土農工商藝人 遊客甲州街道より登り
物中直走り下山あり 毎路々東海小促す途中箱根七箇の温泉場巡り
道行言大山詣横見物巻舟の賑に而落しはく 東都帰著
馬の轡より巻中毎編雅俗混れり 當時の流行や藝盛を 遊所
歌謡 俳諧 狂歌 高名通家と名く 流行里言のこころ多し 京談
實地ふりて 作者の丹精一回々々乃脚色筆談 腹をかちりて
ありて上序文の編毎子しんも東都雷名の通寺寺が狂文小筆を揮ひ 錦心
錦の全本一編二巻不残出板仕の間内求る所の純き希也 飯元錦昇堂伏景

地本繪草紙問屋

照降町

笑壽屋庄七棟





十三編下

貞
園

伊
園



七 三 七



部 第 十 三

十

持 法 申 上

部 の 物 々

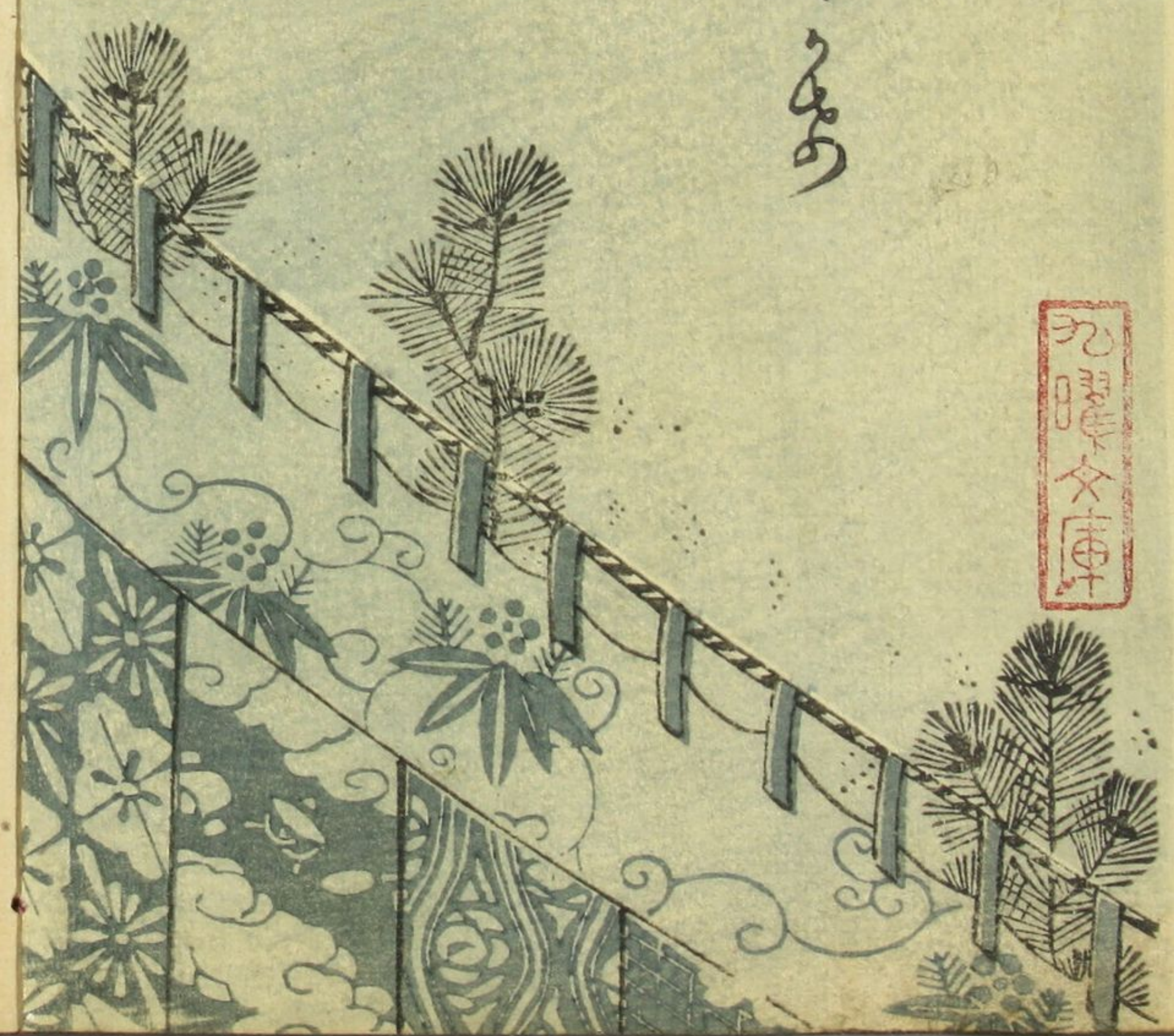
十 三 編 中 巻

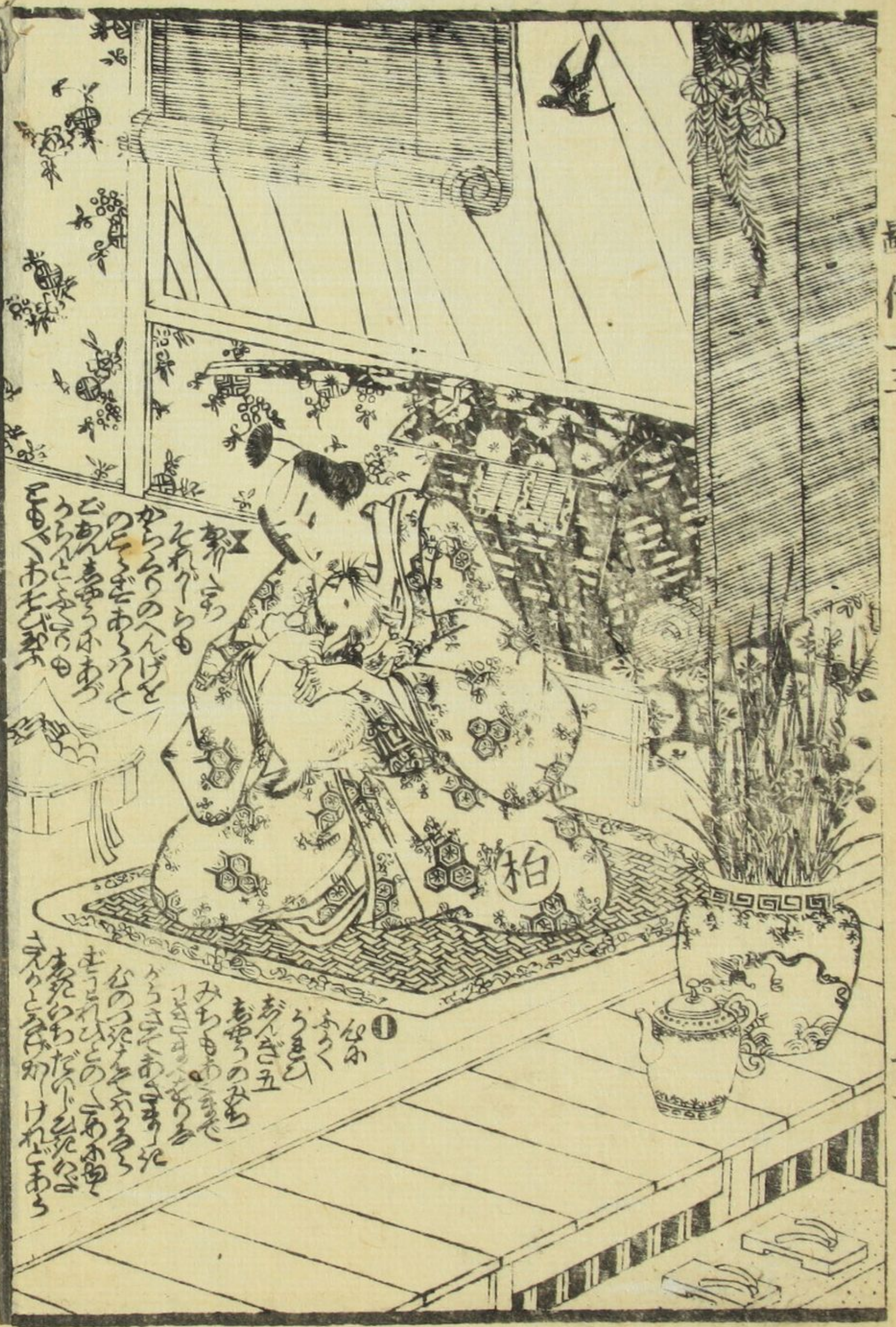
仙 果 作

國 貞 画

えん ぶ ぎ ぶ
う ぶ ぶ

九 曜 文 庫

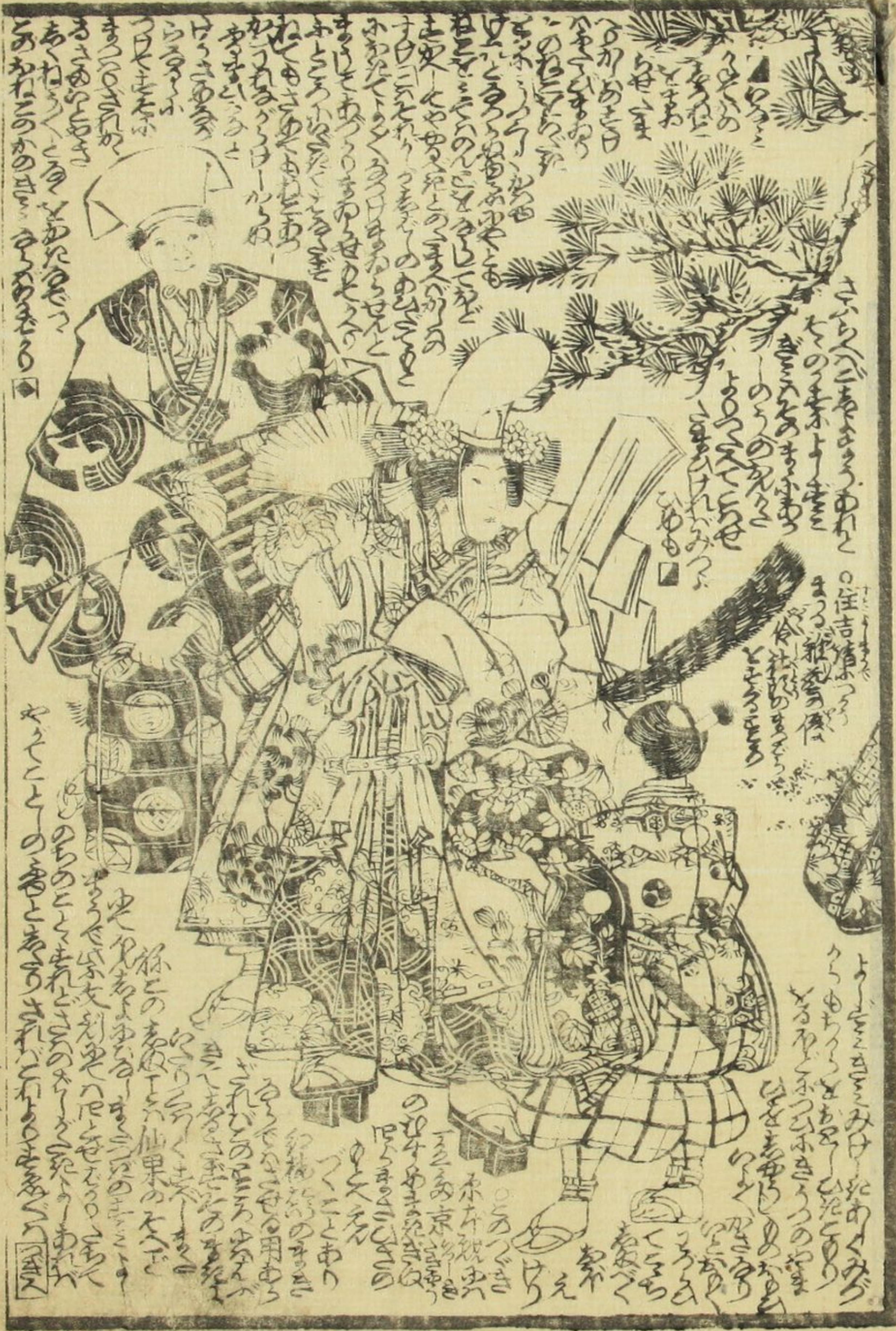




柏
 かしわのへんげ
 のこまをわらう
 うらまはるあぢ
 しくわまはる
 かしわのへんげ
 のこまをわらう
 うらまはるあぢ
 しくわまはる



蘭傳三
 かしわのへんげ
 のこまをわらう
 うらまはるあぢ
 しくわまはる
 かしわのへんげ
 のこまをわらう
 うらまはるあぢ
 しくわまはる
 かしわのへんげ
 のこまをわらう
 うらまはるあぢ
 しくわまはる





Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a diary or travelogue, positioned to the left of the landscape illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text, continuing the narrative or diary entries, positioned below the landscape illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, above the landscape illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text on the right page, positioned to the left of the lower landscape illustration.





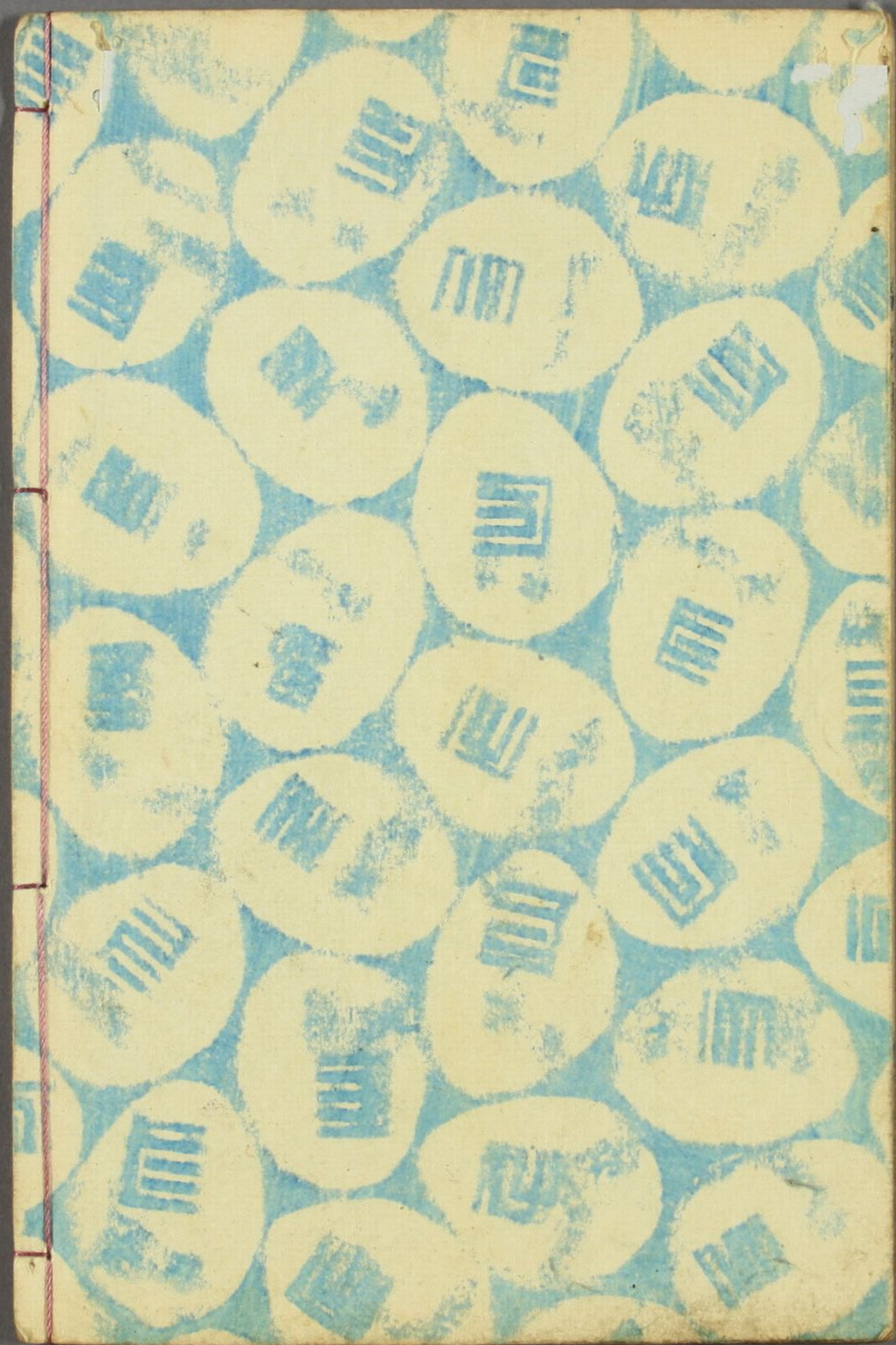
住吉大明神
 嘉永八卯年正月吉日
 住吉大明神
 嘉永八卯年正月吉日

吉野
 東寺
 西寺
 南寺
 北寺
 東山
 西山
 南山
 北山



住吉大明神
 嘉永八卯年正月吉日
 住吉大明神
 嘉永八卯年正月吉日
 住吉大明神
 嘉永八卯年正月吉日
 住吉大明神
 嘉永八卯年正月吉日

吉野
 東寺
 西寺
 南寺
 北寺
 東山
 西山
 南山
 北山



第十三篇

夏由加部乃侍

他
案
從
國
真
畫

蘇子瞻

合七

